

## 平成 27 年度 自己評価書

学 校 名	和歌山市立伏虎中学校
校 長 氏 名	藤 本 禎 男
作 成 日	平成 28 年 3 月 3 日

### 1 教育目標

<p>活気に満ちた伏虎中学校 ～美しく、仲良く、静かで、活力のある学校～</p>
--

### 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点 目 標 P	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 小学校の教職員と現職教育を開催し、小中一貫教育校にむけより一層推進を図る。</li> <li>・ カナダのリッチモンド市だけの交流でなく、韓国大邱市を訪問するなど、国際交流事業の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「道徳の時間」の授業を公開するなどして、教員個々の授業力の向上を図る。</li> <li>・ 生徒会役員、保護者や教職員であいさつ運動、登校指導や遅刻調べなどを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国や和歌山県の学力調査で、つまずきを分析し、生徒一人一人が課題を克服する。</li> <li>・ 中学校 3 年生の約 40 % の生徒が、英語検定 3 級程度の実力を身に付ける。</li> <li>・ 各教科とも、ノートづくりを徹底する。</li> </ul>
取組 の 状 況 D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 小学校の教職員と現職教育を開催し、3 本柱の部会も開催することができた。</li> <li>・ リッチモンド市からの訪問と、韓国大邱市への訪問など国際交流を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心発問を授業のどのタイミングで発問すればよいかを、教員が学習することができた。</li> <li>・ 様々な学校行事を通じて、平和の大切さや戦争の悲惨さを訴え続けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1・2 学年において、英語の授業を少人数で実施したことで、コミュニケーション能力が身に付いた。</li> <li>・ ノート提出については、すべての生徒ができるようになった。</li> </ul>
取評 組価 の結 成果C と課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中一貫教育校の開校が 1 年後となり校時程表など決定したものもあるが、各教科等のカリキュラム編成や指導形態等をどのようにするかについての課題があと少しある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「道徳の時間」のさらなる確保に務めるとともに、授業力をアップさせる必要がある。</li> <li>・ 生徒会の役員はたいへん真面目に仕事してくれるが、もっと主体的に行動できるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的・基本的な学習内容の定着はできているものの、思考力、判断力、表現力などを必要とする部分については、まだ少し弱い部分がある。</li> </ul>
次改 年善 度方 に法 向 A け て の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 29 年度開校に向け、各教科等のカリキュラム編成や指導形態等をどのようにするかなどについて毎月第 3 水曜日を小中一貫教育の実施に向けての 4 校会議の日とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「道徳の時間」の公開授業などを実施し、3 小学校の教員や保護者に参観を呼びかける。</li> <li>・ 生徒会役員に 3 小学校の児童会との交流について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科ともに問題解決型の授業やグループ学習などを計画的に取り入れていく。</li> <li>・ 英語の授業で少人数指導を維持し、コミュニケーション能力を高めていく。</li> </ul>

### 3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒数が少ないことから教員数も少なく、そうしたことから免許外の教科を指導しなくてはならない状況にある。</li> <li>・ 中学校から小学校へ教員が指導にいくことを外国語活動だけでなく他の教科での実施や、小学校から中学校へ教科指導ができるような体制をできるだけ早い段階で実施していきたい。</li> </ul>
---

